

The *PATHOS* magazine of Kumamoto General Hospital

独立行政法人

地域医療機能推進機構 (JCHO)

熊本総合病院だより

ぱとす



第47号

2025年
新年号

Volume 13 Number 1 January 2025

熊本総合病院大ホールホワイエ（北館5階）



病院長あいさつ

薬物療法センター紹介

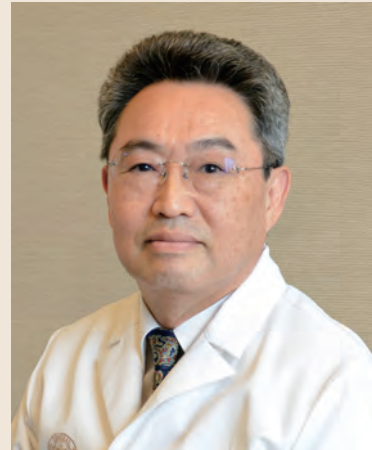
臨床検査紹介

JCHO 学会参加報告

透明性と透明人間

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新年7日にはロサンゼルスが多発性大規模火災が発生しましたが未だに鎮火しておりませんし、国内の政治もさらに問題山積で、騒然とした新年となっておりますが、皆様方におかれましては新しい年を穏やかに迎えのことに存じます。



このような年頭ではございますが、当院は本年も、皆様方のご支援の下、一丸となってさらに質の高い急性期医療の実践を行ないながら、JCHOの使命である「地域医療・地域包括ケアの推進」に向けて貢献するように最大限の努力をして参ります。そして、このように努力できますことは、医師会、熊本大学教授陣、国・県・市行政ならびに市民の皆さま方のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

ところで、「103万円の壁」で象徴されるように、多岐にわたる多額に膨らんだ税金搾取によって国民の生活は極めて圧迫されております。財務省によれば、皆様もご承知の通り2024年度国の一般会計予算は約113兆円です。一方、これまで私も全く認識していませんでしたが、裏の国家予算にあたる特別会計の予算は何と約4倍の436兆円となっているそうです。勿論、その全てが国民の税金でございます。

一般会計の歳出は、社会保障費・地方交付金・文教科学振興費・防衛費などに支出されて国会でも議論的となっておりますが、国の特別会計は「特別会計とは、特定の事業や資金の収支を明確にするために、一般会計とは別に設けられた会計で、例えば、外国為替資金特別会計や年金特別会計、東日本大震災復興特別会計など」となっております。

しかしながら、国の特別会計、特に170兆円にも上る外国為替資金特別会計、は国会でも全く議論的となっておらず当然そのチェックは殆ど行われていけませんので、わたくしども庶民にとって「透明性を欠き、正に、透明人間となってやりたい放題」といったところでしょうか。

このことを、「母屋でおかゆをすすっているときに、離れでは子どもがすき焼きを食っている」、即ち、「各省庁の差配で予算配分が決められ既得権益の温床となっており、官僚の天下り先である特殊法人（NHKや多種公団・事業団など）に流れ込んでいくという構造が形成されている」との塩川元財務相の言葉が特別会計の実態を象徴しているそうです。正に、透明人間の集塊、いやはやなんともはや困ったものです。

鵬外の「最後の一句」に、父の無罪を信じる娘いちのお白洲での言葉「お上のする事には間違いがございますまいから」は、逆に、鵬外の官権への強烈な批判意識が込められています。一方、当機構本部の毎年の明瞭な収支報告を知らされている訳ではありませんが、当院におきましては、毎月毎月、職員に収支報告を行っており、当院は透明性が確保されていると確信しているところでございます。

さておき、わたくし共の熊本総合病院は、本年も引き続き全職員が一丸となって、「医療とともに、公に一肌脱ぎ」ながら「医療のみならずまちづくりにも貢献する」意気込みで、地方創生・人口増加・少子化阻止にも少しでも寄与できるように、さらに精進して参ります。本年も、皆さま方のさらなるご支援を何卒宜しくお願い申し上げますとともに、皆さま方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和7年 1月吉日

薬物療法センターの紹介

がんセンター長 堀野 敬

我が国のがん患者数は近年増加傾向にあり、現在死亡原因の第一位です。国民の2人に1人ががん罹患し3人に1人はがんで亡くなるとも言われています。しかし最新の報告では、がんの5年生存率は64%ですのがんに罹患した3分の2の患者さんががんを克服されるか、またはがんと共に日々の生活を送られているのが現状です。

当院はがん診療連携拠点病院として様々ながんに対して各科（消化器内科、血液内科、呼吸器内科、外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科など）の医師を中心に様々な治療を組み合わせ集学的治療を行っています、その柱の一つである薬物療法を行うところが薬物療法センターです。

以前は化学療法室と言っておりましたが、従来からの抗がん剤（化学療法剤）ばかりではなく抗がん作用のある分子標的薬や免疫療法薬の使用頻度が増え、さらにがん以外の疾患に対しての治療も可能となりましたので一昨年から薬物療法センターに名称を変更しました。

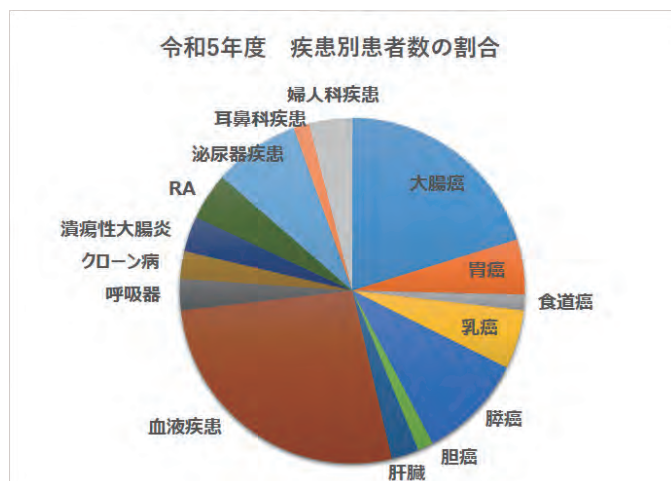
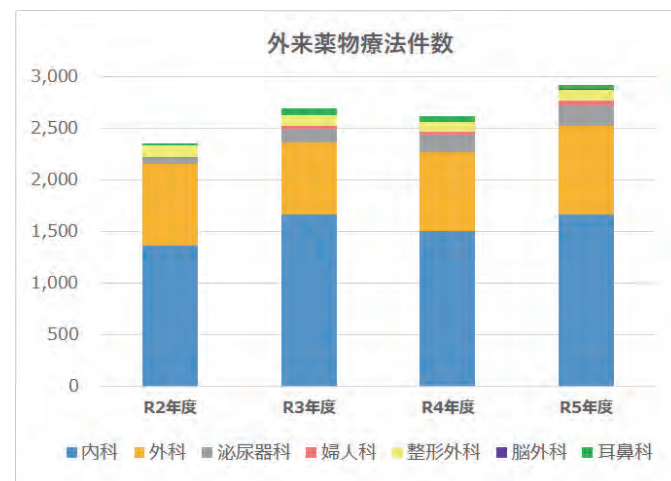
外来通院可能な患者さんの薬物療法を年間3000件ほどこの薬物療法センターで行っておりますが、入院を必要としないため患者さんのご負担（時間的、精神的、経済的）を軽減できる反面、ご自宅での副作用などの体調チェック、それに応じたきめ細かな対応が不可欠となります。当院ではがん治療認定医、専任のがん化学療法認定薬剤師、認定看護師、各科専門医師がワンチームとなりそれぞれの患者さんの治療上の課題を様々な角度から検討し、ご自宅への電話サポートも適宜とり入れながら、薬物療法を受ける全ての患者さんができるだけ快適な日常生活を送って頂けるように日々努めています。

薬物療法センターの利用数は年々増加傾向にあり、時間調整が必要な場合もありますがスタッフ一同誠心誠意、患者さんのサポートに尽力してまいりますのでこれからも薬物療法センターを宜しくお願いします。

何かございましたら遠慮なくお声かけください。



薬物療法センタースタッフ
(後列中央:堀野がんセンター長)



高度急性期病院としての診療に貢献する臨床検査

臨床検査技師長 木下 まり

2023年の病院増改築に伴い、生理機能検査センターは北館2階へ、臨床検査センターは本館3階へ移設されました。新しくなった検査室を活かし、患者さんのための検査に情熱をもって取り組んでいます。

生理機能検査センターでは、患者さんに負担が少なく診断価値の高い超音波検査の充実に力をいれています。病院と健診を合わせると年間およそ13,000件の超音波検査を精力的に実施し、年々高まるニーズに応えています。この状況を受けて、超音波検査室を増設し超音波装置も最新機種に整備されました。スペースが広くなり、車椅子や病棟からのベッドの出入りが楽になったと好評です。



超音波検査室と待合室

また、各領域の超音波検査認定資格を有する技師が対応いたしますので安心して検査を受けていただけます。健康管理センターの『脳ドック』や『心臓ドック』の超音波検査も担当しておりますので、予防医学としてもぜひご利用ください。

臨床検査センターは、患者さんの貴重な検体（血液・尿など）を検査するエリアです。こちらも最新の検査機器が整備されており、一日およそ9,500件の検査を実施しています。患者さんの検査結果を正確にスピーディーに報告するために、高性能な検査機器とシステムを活用しながら、各専門分野の認定資格を有した臨床検査技師が日々、業務に励んでいます。



臨床検査機器が整備された検査室

当院は高度急性期病院として地域医療に貢献する使命があり、検査部も救急医療を支えるべく24時間365日検査に対応しています。

今後も若手技師が専門性の高い認定資格を取得できるように人材育成にも努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

第9回JCHO地域医療総合医学会参加報告

令和6年11月29日(金)・30日(土)、仙台国際センターにおいて「第9回JCHO地域医療総合医学会」が開催されました。「ともに築こうJCHOの強み」をテーマに講演やシンポジウム、演題発表が行なわれ、当院からも多数発表しました。

会長推薦講演

氏名	職名	演題名
島田 信也	病院長	[座長] The Public Enemy にならないように 講師 内野 直樹 (JCHO顧問)

シンポジウム

氏名	職名	演題名
北本 康則	検査部長	JCHO調査研究事業における研究を通じた成果と意義について
藤井 憲一郎	薬剤部長	知って欲しいJCHO薬剤師の魅力！～地域医療推進～
白坂 亜子	副栄養管理室長	直営vs委託 愛ある病院給食を提供するために
大岡 建太郎	主任薬剤師	知って欲しいJCHO薬剤師の魅力！～専門領域～
魚住 佳史	将来構想戦略室長補佐	将来構想戦略室から学ぶ『構想力』と『実現力』

一般演題・口演発表

氏名	職名	演題名
松原 大勇	消化器内科医員	intraductal oncocytic papillary neoplasm (IOPN) の1 例
小野 浩輔	外科医員	虫垂切除後に杯細胞カルチノイドの診断となり追加切除を施行した一例
上淵 未来	副薬剤部長	外来化学療法に関する薬薬連携の深化と治療の良質化
木下 まり	臨床検査技師長	臨床検査の『品質保証施設認証』を取得して
赤迫 友太	臨床検査技師	未破裂脳動脈瘤の最新ステント治療における抗血小板療法モニタリング体制の構築～血小板凝集能検査の導入による貢献～
堀 瑞紀	診療放射線技師	放射線業務の質向上に向けて～ワーキンググループを通じた人材育成～
野田 観世	管理栄養士	糖尿病教育入院の効果を増大するための試みー退院後も食事療法が遵守され継続できる指導の考案ー
高濱 格	主任臨床工学技士	高齢低栄養透析患者におけるヘモダイアフィルタｰPMFの有用性
澤田 真希	臨床工学技士	透析用カテーテル脱血不良対策におけるポンピング操作の有用性
宮崎 春美	看護師長	夜勤従事者の食行動と健康への影響および教育効果の検証
三浦 慎一郎	看護師	女性患者の尿道留置カテーテルによる不快感の実態
高木 一寿	看護師	院内発症の急性脳梗塞患者への「Code Stroke」発令による早期治療介入
西村 秀洋	経営企画係長	勤務時間の正確性と透明性を実現する勤務時間管理システムの構築
鳥飼 珠里	管理係	当院健康管理センターの新築移転と受診者数増加にむけての取り組み

一般演題・ポスター発表

氏名	職名	演題名
北本 康則	検査部長	健診時血尿を示した糖尿病の尿路感染症合併頻度の検討
浜村 亮太	作業療法士	鏡視下肩腱板修復術後の装具固定期間中に肘部管症候群を発症した一例
立場 文音	言語聴覚士	身体認識の異常と麻痺肢自傷の関係に関する経時的検討
山本 美子	看護師長	入退院支援のセンター化並びに「ジェイ太郎」活用による入退院支援効果について
吉山 弘美	入院係	患者クレームに対する医事課の取り組み

画像診断センターだより



令和6年5月末に、3.0 TMR I 装置のフルバージョンアップを行いました。

装置停止期間中は検査予約について大変ご迷惑をおかけしましたが、バージョンアップ後は従来の装置と比べ画質は向上し、より高速撮影が可能となっています。そのため、検査時間が約30%短縮され、より患者さんに負担が少ない検査が行えるようになりました。

今後もさらに迅速な検査依頼に対応できるよう努めて参ります。

健康管理センターだより

脳の血管障害や脳腫瘍などを早期に発見します。高血圧・糖尿病・脂質異常症などの脳卒中危険因子を有する方におすすめです。家族のため、大切な人のために早期発見を！



【料金】簡易：33,000円 脳専門：44,000円

★当センターは日本脳ドック学会認定施設です。

検査 コース	血液検査	MRI MRA	心電図	認知機能 テスト	頸動脈 エコー	診察
簡易		○		○	○	○
脳専門	○	○	○	○	○	○

こんにちは赤ちゃん

当院産科で元気な赤ちゃんが誕生しております。

スタッフ一同、赤ちゃんのご家族が笑顔で過ごせる毎日をお祈りしています。



第80回

熊本総合病院市民公開講座

熊本の未来を語る

「熊本県政の未来
への架け橋」



熊本県知事
木村 敬 氏

「熊本大学の更なる
改革に向けて」



熊本大学学長
小川 久雄 氏

講演後、座談会も予定しております

参加費無料

定員 **350** 名

※申込不要

開会挨拶

八代市長

中村 博生 氏



司 会

熊本総合病院 病院長 **島田 信也**

日時 2025年 **2月16日** (日)
16:00~18:00 (開場15:00)

場所 **熊本総合病院 北館
5階大ホール**

お問い合わせ JCHO熊本総合病院 総務企画課 TEL: 0965-32-7111 主催: 熊本総合病院 後援: 八代市



JCHO熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町 10 番 10 号

電 話 0965-32-7111 (代表)

FAX 0965-32-2772

URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>

発行 日: 令和7年1月20日

発行責任者: 病院長 島田 信也